

「対話」で学力の向上と豊かな人間関係づくりを目指す取組

今回は、「自分の考えを表現する」ことに焦点を当て、こだわりをもって「対話活動」を取り入れた研究を進めている青嶺中学校の田中校長先生と長野指導教諭にインタビューをしてきましたので、その内容を御報告します。

青嶺中学校の取組の内容

「対話」を取り入れた授業づくり

- ・単元、題材の展開後半に位置付ける。
- ・対話問題は、協働的に解決できるもの、複数の考え方があるもの。
対話問題(問い)の質が成功の鍵を握る。
- ・対話において、共感的に聴くことと批判的(クリティカル)に聴くことを意識させている。

職員・子どもとの共通理解のために

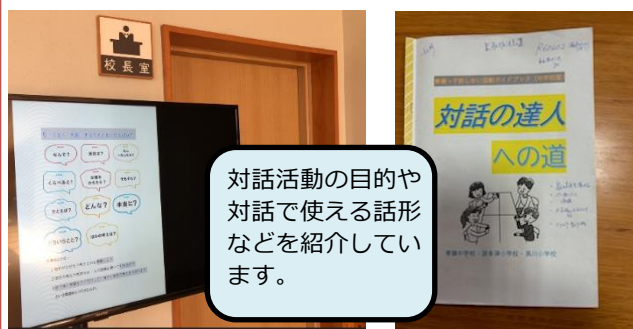
※全教科・領域、そして校区内の小中学校で取り組むことで、相乗的に子どもの力が付いていくと考える。そのために・・・

① 田中校長の対話活動の模擬授業



黒川小学校の先生方を対象に模擬授業を行う田中校長

- ② 校内に設置している ③ 冊子「対話の達人への道」モニター



対話活動の目的や対話で使える話形などを紹介しています。



【長野研究主任】

【田中校長先生】

田中校長先生・長野研究主任へインタビュー

Q1 「対話」を重視するきっかけは何だったのでしょうか。

A1 中学校区内の3校(青嶺中、波多津小、黒川小)で、どんな子どもを育てたいかを話し、「表現できる子」「自分とは違う考えや他者を受け入れる子」を育てたいと考えたからです。

Q2 具体的にはどのような子どもに育ててほしいと考えていますか。

A2 「対話」を通して、人間理解を深めてほしい。「対話」で、このような人なんだと分かればよい。子どもも大人も生き辛そうな世の中。「対話」でお互いを知ることができれば、もっと生きやすくなるのではないのでしょうか。

Q3 実践を進める上での難しさはありますか。

A3 新規採用職員も含め、若手教員も増えていきます。対話的な活動を授業で行うには授業スキルや経験も必要なため、難しいと思います。しかし、先生方に授業の引き出しを増やしてほしいという思いで共にチャレンジしています。

全職員で取り組むことで、子どもが成長し、その子どもの成長が若手教員の成長を促すといったサイクルも生まれています。

青嶺中学校の取組で使われている資料等

「対話シート」

対話シート
令和6年 月 日 ()
年 組 () 号
氏名

【対話題】

① Before answer 最初の自分の考え (対話する前のキミの考えを書こう)

②★対話の中でひびいた「ともだちの考えや言葉」をどんどんメモろう！

+ α

③ After answer (対話した後のキミの考えを書こう)
自分の最初の考えについて納得感を高めたり変化したり、ともだちの考えや見方、意見・質問が参考になったりするところはあったかな？！また、気付いたことなどを書こう

②メモ () さん

②メモ () さん

対話のコツ 3つの聴く

- 【共感的】に聴く
 - ・自分と同じでも違っても考えを尊重して、聴く
 - ・相手の方を見て、聴く
 - ・最後まで、聴く
 - ・メモをして、聴く
- 【批判的】に聴く
 - ・自分の思い通りに相手でも比べながら、論議や意見を考えながら、論議
 - ・感情的にならないように冷静
- 【論理的】に聴く
 - ・意見や考えの主張・データ・根拠を、聴く

②対話活動で参考になった友達の考えをメモします。

①対話題 (対話のテーマ) に対する最初の自分の考えを書きます。

③対話活動後の変容した自分の考えを書きます。

「授業チェックシート (研究授業用)」

令和6年度青嶺中学校校内研究実践計画 (2学期) 及び実践・研究会記録
「青嶺っ子対話の達人」(話し合い活動ガイドブック) を基にした授業実践
() 科 氏名 ()

計画及び実践	各教科・道徳・総合・特別活動・朝の会・帰りの会 その他 ()
対話を取り入れる授業等 (1つを○囲み)	
期 日	() 月 () 日 () 曜日 () 時間目
参観者	グループ (A・B・C・D) 氏名 ()
単元名	
本時教/総時教	(/)
本時の目標 (めあて)	・
重点観点 (1つを○囲み)	・【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】
取り入れる対話活動の目的	・
対話題	・
対話シートの活用	有・無 (有の場合は、実践後にぜひ提供をお願いします)

記録

授業者 → 対話活動を取り入れた実践を行ってみて、生徒の「聴く」様子はどうかであったか、対話した後の生徒の考えはどうかであったか、本時の目標 (めあて) 達成に効果があったかなど

参観者 → 自身の今後の教科 (授業) に取り入れる際に参考になりそうなこと、など

研究会 (20分程度) の記録

- 1 開会
- 2 上記「記録」の枠へ記入 (事前記入でもよい)
- 3 2記述内容の紹介・意見交流

4 次実践者の予定確認等

5 閉会

授業者 実践・研究会を終えて、次の実践に向けて、改善したりよりよくなりましたことを御記入ください。

授業後の振り返りや、研究会の記録、次の実践に向けた課題などを記入します。

授業に取り入れる対話活動の目的、対話題 (対話のテーマ) などを記入します。

青嶺中学校の取組については、直接学校までお問合せください。

今回のインタビュー内容はいかがでしたか。「もっと青嶺中学校の取組を知りたい！」と思われた場合は、田中校長先生に直接お尋ねください。

TEL (0955-27-0053) mail アドレス (tanaka-taiji@education.saga.jp)